

# 十五歳の選択

VOL.10 2023. 9月

## 1、進路関係行事予定

### A、進路についての今後の予定について

9月	5日(火)	チャレンジテスト
10月	3日(火)	進路写真
	11日(水)~13日(金)	中間テスト
	16日(月)~31日(火)	教育相談
11月	1日(水)	第2回実力テスト
	6日(月)~20日(月)	教育相談
	21日(火)~22日(水)	期末テスト
12月	11日(月)~13日(水)	教育相談
	14日(木)~21日(木)	3者懇談⇒私立高校、公立特別選抜、高専の受験校決定
1月	25日(木)26日(金)	卒業テスト ⇒26日はテスト後私立出願
	29日(月)~2月2日(金)	面接練習 ⇒必要な人のみ
2月	10日(土)~12日(月)	京阪神私学入試
	14日(水)15日(木)	公立特別選抜出願
	20日(火)21日(水)	公立特別選抜入試
	16日(金)~22日(木)	公立一般選抜のための教育相談・懇談
	29日(木)	公立特別選抜合格発表
3月	4日(月)~6日(水)	公立一般選抜出願
	11日(月)	公立一般選抜入試
	13日(水)	卒業式
	19日(火)	公立一般選抜合格発表
4月	次のステージへ。	

## B、進路希望調査について

- ☆ 第2回進路希望調査については後日配布します。
- ☆ 今後とも、期限は必ず守るようにお願いします。
- ☆ 内容については説明しましたが、不明な点があれば担任に聞いてください。
- ☆ 進路先の希望を聞いています。これで決定ではありません。あくまでも現段階の希望を書いてください。
- ☆ 第2回進路希望調査をもとに10月、11月の教育相談を行います。
- ☆ 第3回進路希望調査は11月中旬に実施する予定です。第3回進路希望調査をもとに教育相談、12月の三者懇談を実施します。

## C、教育相談(進路相談)について

- ☆ 卒業後の進路についての具体的な話し合い(受験校の決定に向けて)をします。
- ☆ 原則的には二者懇談ですが、必要があれば三者懇談を行います。  
(保護者が直接担任に相談したい場合はお申し出ください。)
- ☆ 保護者の意向も生徒に聞きますので、教育相談までにご家庭でよく話し合っておいて下さい。
- ☆ 担任からの助言・指導を参考に、ご家庭でも率直に話し合ってください。
- ☆ 今後、話し合うための成績関係の資料は、随時お渡します。
- ☆ 教育相談・懇談における資料

10、11月 教育相談	1・2年時と3年一学期の五段階評定 第一回実力テスト 第二回実力テスト等
12月三者懇談	1・2年時と3年の1、2学期合わせての五段階評定(私学と公立特別・高専に提出) 第一回実力テスト 第二回実力テスト等
3学期教育相談	1・2年時と3年の年間の五段階評定(公立一般に提出) 第一回実力テスト 第二回実力テスト等

- ☆ 教育相談を担任と生徒が行った後、どんな話をしたか、生徒は必ず保護者に伝えてください。保護者は教育相談の話の内容を生徒にお聞き下さい。
- ☆ 進路希望先の変更をする場合、できるだけ早く担任に伝えてください。生徒が直接担任に伝えても、もちろんかまいません。その場合は、担任から電話等で保護者に確認をとらせていただきます。

## D、二学期末懇談(三者懇談)について

- ☆ 進路希望調査をもとに行います。
- ☆ 私学希望校に対しての学校の判断を知らせます。  
(学校の判断とは、校長・教頭・学習進路部・3年職員による会議でひとりひとりの生徒の進路についての検討を行った結果出されたものです。)
- ☆ 私学受験校を最終決定します。この後の変更はできません。
- ☆ 私学の場合、大阪府の授業料無償化制度により、家庭の年収によって学費が変化します(大阪府内の私学の場合、年収590万円未満の家庭は実質学費免除、年収590万以上800万円未満の家庭は子どもが一人なら年間授業料負担20万円等)。学校がご家庭の年収等個人情報についてお聞きすることはありませんので、ご不明の点は、大阪府府民お問い合わせセンター「ピピっとライン」(電話:06-6910-8001 FAX:06-6910-8005)にお問い合わせください。
- ☆ 公立特別選抜(工業に関する学科、美術科、体育に関する学科、芸能文化科、演劇科、総合造形科、音楽科、エンパワメントスクール)の受験校も決定します。
  - ・公立特別選抜には二学期末までの成績を基本とします(正式には12月末日を以て作成)。
  - ・専門学科は、体験入学に参加するなどして学ぶ内容を理解して受けることが必要です。

- ☆ 公立一般選抜(全日制普通科、特別選抜以外の専門学科、総合学科、単位制、定時制、通信制)については、おおよその方向性を話し合います。(最終決定は三学期で大丈夫です。)
- ☆ 二学期の五段階評定(1, 2学期合わせての評定)について、お知らせます。
  - ・一学期の評定から変わっている可能性があることをご了解下さい。
  - ・公立一般選抜の調査書に記入する年間の五段階評定は、卒業テスト後に改めて算出します。年間の五段階評定をもとに、三学期の公立一般選抜のための懇談を行います。

## E、受験用写真について

- ☆ 10/3(火)に撮影します。身だしなみを整えておきましょう。

## F、願書記入と出願について

- ☆ 私立の願書は、受験校決定後冬休み中に各自で取り寄せます。
- ☆ インターネットによる出願を行う場合、マイページを冬休み中に作成しておく必要があります。マイページの情報を印刷し、冬休み明けの始業式に印刷物を担任へ提出します。  
詳しくは各校の出願手引きを確認してください。(公立高校の願書は、中学校で用意します。)
- ☆ 募集要項は、家庭でよく読んでください。
- ☆ 願書は生徒自身が記入します。(鉛筆で下書きし、学校で点検をしてから清書します。担任から指示があるまで清書しないでください。)
- ☆ 受験料の振り込み等は、中学校の指示があつてからにしてください。
- ☆ 出願は学校で日を決めて一斉に行きます(現在の予定では 1/27(金)。一部の私学は他の日)。試験会場までの交通機関、所要時間を知るためにも本人が行きます(郵送の学校もあります)。
- ☆ 病気等で生徒本人が出願できない場合は、保護者が出願します。教師や友人が代理で出願することは出来ません。
- ☆ 出願の際は、服装・態度等に十分気をつけるよう注意してください。
- ☆ 最近インターネット出願を導入する学校がほとんどです。(近大附属、大阪国際、常翔啓光、東海大仰星、四條畷学園など)担任の連絡があるまで振込は絶対にしないでください。

## G、私学入試について

- ☆ 京阪神地区のほとんどの高校は、2/10(土)、11(日)に入試が行われます。京都では 12(月)に行う学校もあります。
  - ・奈良県は、2/6(火)です。
  - ・専修・専門学校は、1 月に入試が行われるところもあります。
- ☆ 受験に対する指導・注意は学校で事前に行います。(面接練習も行います。)
- ☆ 十分な体調で受験できるよう注意してください。  
(夜更かしをせず、睡眠を十分にとってください。)
- ☆ 私学は合否の判定材料に面接を取り入れているところが少なくありません。  
面接では日頃の生活態度を見られます。試験のみの場合でも外見は非常に重視されます。服装の乱れ、染髪、脱色、ピアス等装身具、言葉遣いなどご家庭でもご指導宜しく願いいたします。

## H、合否の結果と手続き

- ☆ 合否結果はすぐに学校に連絡してください。
- ☆ 不合格の場合はすぐに教育相談(三者懇談)を行い、今後のことを話し合います。
- ☆ 入学金納入などはご家庭の責任でお願いします。(募集要項を熟読し、締め切り期日などをご確認ください。)
- ☆ 入学金・授業料の納入期限について、多くの私学が相談窓口を設けています。

## 1、三学期公立一般選抜教育相談(三者懇談)について

- ☆ 日程上短縮授業を行えないので、基本的には生徒と担任の二者で行います。もちろん、希望される場合は三者で行います。
- ☆ 二学期末懇談でお聞きした公立一般選抜希望校をもとに行います。その後、変更があった場合は、できるだけ早く担任に伝えてください。生徒を通じてでも、もちろんかまいません。その場合は担任から電話等で保護者に確認をとらせていただきます。
- ☆ 公立一般選抜希望校に対しての学校の判断をお知らせします。  
(学校の判断とは、校長・教頭・進路指導部・3年職員による会議でひとりひとりの生徒の進路についての検討を行った結果出されたものです。)
- ☆ 年間の五段階評定について、お知らせします。
  - ・二学期にお知らせした5段階評定から変わっている可能性があることをご了解下さい。
  - ・公立一般選抜の調査書に記入する年間の五段階評定は、卒業テスト後に改めて算出します(正式には2/15(木)を以て作成)。

## 2、進路決定に向けて

- ☆ 進路を最終的に決定するのは、生徒本人および保護者です。
- ☆ 本人の気持ちを中心に、率直な話し合いをしてください。
  - ・次の3年間、目標を持ってがんばろうという意欲を持たせることが大切です。
- ☆ 合格の見通しを持った受験校の選択をお願いします。
  - ・進路の確保が第一です。
  - ・合格はゴールではありません。高校生活のスタートです。
- ☆ 学校・学科の名前や難易度だけに振り回されないでください。
  - ・求める高校生活、将来の目標などをしっかりと考えましょう。
- ☆ 学校・学科・コースの内容をよく理解して選択をお願いします。
  - ・第一回「進路希望調査」では、学科・コースまで書いてください。
- ☆ 公立・私立専願は、合格したら必ず進学しなければなりません。
  - ・公立特別選抜・高専に合格したら、公立一般選抜には出願できません。
- ☆ 公立を受験する時は、私立併願校の受験をお願いします。
  - ・公立は競争率が高く、合格する保証はありません。公立のみの受験はできるだけ避けてください。

## 3、私学入試について

☆専願(せんがん)と併願(へいがん)という受験の仕方があります。

専願: その私立高校だけを受験し、合格すれば必ずその学校へ進学します。

(公立高校は受検できません。)

多くの高校の場合、併願より合格最低点が低くなっています。

併願: 公立高校も受検し、公立高校に合格すれば公立高校に進学します。

\* 京都の高校は、一定の成績基準を上回る専願を「推薦」、併願を「一般」と呼ぶところがあります。

- ☆**入学試験** 3教科(国語・数学・英語)又は5教科(国語・社会・数学・理科・英語)
  - ※選択教科制をとっている学校もあります。
  - ※高等専修学校は、国・数の2教科が多いです。
  - ※1教科でも0点または10点未満等の基準点に達していなければ不合格になることがあります。
- ☆**面接試験** 本人または本人と保護者との面接を行う学校が多いです。  
本人の態度、適性、学習への意欲などをみるのがねらいで、どの学校でも重視されています。形式は個人面接、グループ面接と学校によって異なります。面接のない学校があります。服装・態度・言葉遣いなど普段からきちんとしてみましょう。
- ☆**個人報告書** 学習の記録 (3年1・2学期合わせての五段階評定)

総合所見（学習態度・クラブ活動など中学校生活の様子）・（出欠の記録）

☆合否判定 入学試験・面接・調査書を総合的にみて合否を決定します。

どれを重視するかは高校によって違います。

☆2月中旬に1.5次入試や3月公立一般入試発表後2次入試を行う私学もあります。

☆学校ごとに様々な特色があります。学校説明会や体験入学等で確かめる必要があります。

## 4、公立入試について

☆令和4年度から汎愛高校の体育科(80名)と武道科(40名)は体育科(120名)と一本化して募集しています。

☆大阪市の西高校、南高校、扇町総合高校の3校を再編整備し、令和4年度4月から教育系を専門学科とする「教育文理学科」を設置する「桜和(おうわ)高等学校」を現在の扇町総合高校の校地で開校しています。

☆長尾中学校では、こういった情報を集めて検討し、生徒・保護者と密に連絡を取り、協力し合って進路について考えていきたいと思っております。また、それぞれの学校の詳細については、大阪府の公立高校・支援学校検索ナビ「咲くなび」で検索することができます。不明な点があればいつでも中学校に聞いてください。

## ＜公立受験資格＞

大阪府の公立高校を受験する場合、次のような条件を満たしていることが必要になります。

生徒及び保護者(父母の場合は2人とも)の住所が共に  
・全日制普通科・専門学科・総合学科・普通科単位制・府大高専等どれを受験の場合も

大阪府内にあること。

※住所とは、この場合、住民登録又は外国人登録されている居所です。

上記の条件を満たしておれば何ら問題はありません。単身赴任やご家庭の諸事情等でそうでない場合は、一定の書類や手続きが必要になってきますので、至急担任へお知らせください。

## ＜公立高校に関する今年度の主な注意点＞

☆ 出願時に自己申告書を提出します。保護者が必ず内容をご確認ください。

☆ 募集人員を複数の学科等ごとに設定している高等学校は、他の1学科を第2志望とすることができます。

## ＜選抜方法＞

### 特別入学者選抜(2月20日、21日実施)

#### 学力検査・実技検査

☆ 音楽科は、2/17(土)に視唱・専攻実技検査、20日(火)に学力検査・聴音があります。

☆ 国・社・数・理・英の5教科の学力検査と実技検査があります。

☆ 国・数・英の3教科の学力検査には種類A(基礎的問題)と種類B(標準的問題)の2種類の問題を各高校が独自に選択しています。すべて検査時間は40分・配点は45点です。ただし、英語には別途リスニング15分があります。

○ 特別入学者選抜

《実技検査を実施する場合》

<Step1>

学力検査						
教科	国語	社会	数学	理科	英語	学力検査の成績(①)
配点	45点	45点	45点	45点	45点	225点

調査書  
9教科の評定 各50点(3学年の評定×3倍+2学年の評定×1倍+1学年の評定×1倍)とする。  
(9教科:国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語)

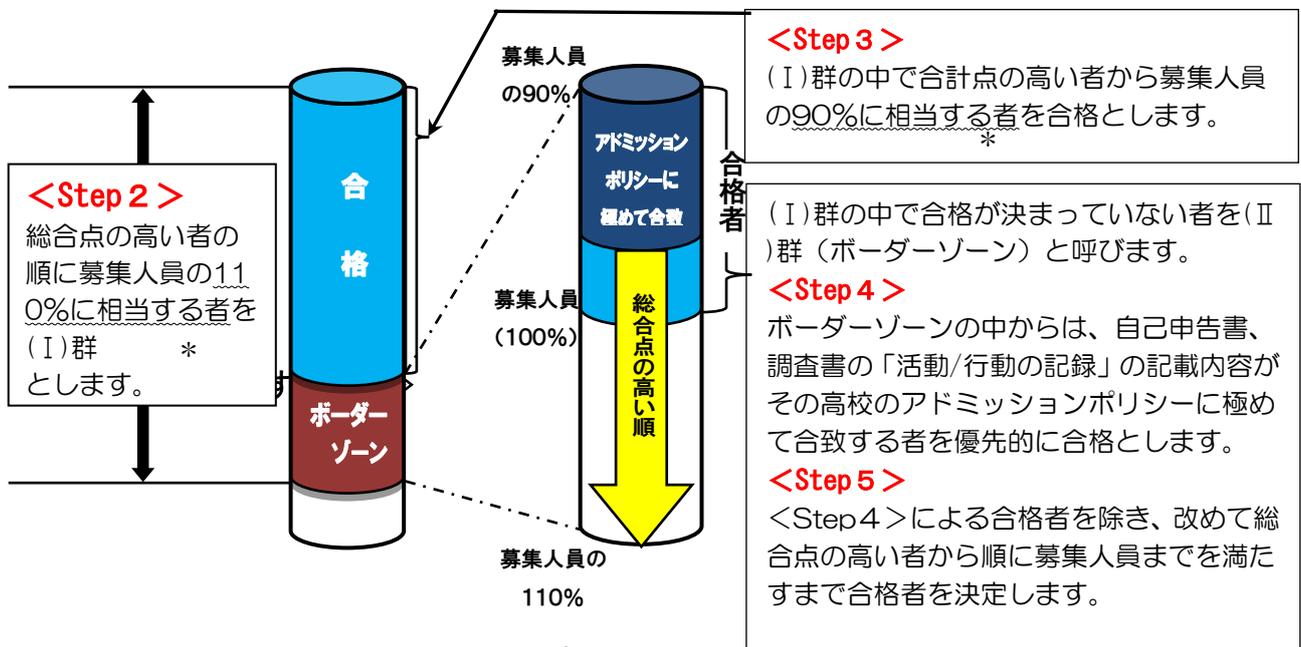
総合点	調査書の評定(②)
各高等学校長が選択し、府教育委員会が決定したタイプにより、「学力検査の成績(①)」と「調査書の評定(②)」にそれぞれの倍率をかけて合計し、総合点を算出。	225点

タイプ	学力検査の成績(①)にかける倍率(点数)	調査書の評定(②)にかける倍率(点数)	総合点(①+②)	【参考】 学力検査の成績:調査書の評定
I	1.4倍(315点)	0.6倍(135点)	450点	7:3
II	1.2倍(270点)	0.8倍(180点)		6:4
III	1.0倍(225点)	1.0倍(225点)		5:5
IV	0.8倍(180点)	1.2倍(270点)		4:6
V	0.6倍(135点)	1.4倍(315点)		3:7

**実技検査**

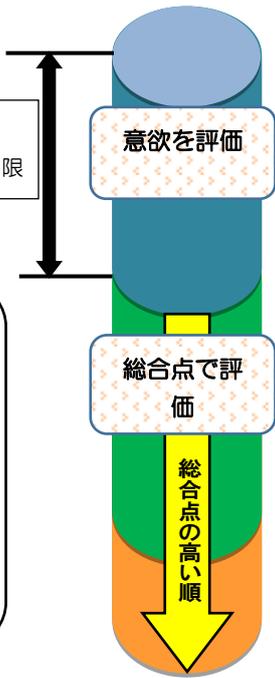
工業に関する学科(デザイン系)・美術科・総合造形科・演劇科・音楽科 150点  
 体育系に関する学科 225点(運動能力45点+運動技能180点)  
 グローバル探究科、芸能文化科 100点

**合計点** = ①+②+ **実技検査** の成績



《面接を実施する場合》

**<Step 1>**  
 学力検査の成績が、府教育委員会が定める基準に達した者の中から、A=面接、B=自己申告書、C=調査書の「活動/行動の記録」を資料として、「学校のアドミッションポリシー（求める生徒像）」に最も適合する者から順に、募集人員の50%を上限として合格者を決定する。その際の評価の比率は、A:B:C=2:1:1とする。



**<Step 3>**  
 第一手順による合格者を除き、総合点の高い者から順に、募集人員を満たすまで合格とする。

**<Step 2>**

学力検査						
教科	国語	社会	数学	理科	英語	学力検査の成績(①)
配点	45点	45点	45点	45点	45点	225点

調査書	
9教科の評定 各25点(3学年の評定×3倍+2学年の評定×1倍+1学年の評定×1倍)とする。 (9教科:国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語)	
調査書の評定(②)	
225点	

総合点				
タイプ	学力検査の成績(①)に かける倍率(点数)	調査書の評定(②)に かける倍率(点数)	総合点	【参考】 学力検査の成績:調査書の評定
I	1.4倍(315点)	0.6倍(135点)	450点	7:3
II	1.2倍(270点)	0.8倍(180点)		6:4
III	1.0倍(225点)	1.0倍(225点)		5:5
IV	0.8倍(180点)	1.2倍(270点)		4:6
V	0.6倍(135点)	1.4倍(315点)		3:7

## 大阪公立大学工業高等専門学校入学者選抜

### (1)小論文と面接による選抜

- ☆ 「小論文と面接による特別選抜」に出願できる者は次の条件を満たしているものに限ります。
  - A、中学校の校長が推薦する者。
  - B、3年次の評定合計が36以上かつ数・理・英・技家の合計が18以上の者。
- ☆ 合否判定は、調査書130点、当日の小論文80点、面接30点の総合判定です。  
調査書成績については、アドミッションポリシーに基づき科目による重みづけをします。
- ☆ 出願は1/5(金)～12(金)。小論文と面接の試験が1/20(土)。合否発表が1/24(水)。
- ☆ 高専合格の場合は公立高校を受験できません。

### (2)学力検査による選抜

- ☆ 募集人員において(1)の選抜での残りの人数をこの選抜で合格とします。
- ☆ 合否判定は、学力検査と調査書の点数を合計して行います。  
(学力検査650点(国・社＝各100点＋数・理・英＝各150点)＋調査書450点  
(全教科×10)＝合計1100点)
- ☆ 出願は1/25(木)～1/31(水)。試験が2/11(日)。合否発表が2/15(木)
- ☆ (1)が不合格になって(2)を受験する場合は、あらかじめ申し出ている場合には、あらたな手続きなしに(2)を受験できます。
- ☆ 高専合格の場合は公立高校を受験できません。
- ☆ 募集は「総合工学システム学科」として総合募集となっています。

## 一般入学者選抜(3月11日実施)

### 学力検査: 国・社・数・理・英の5教科

- ☆ 国・数・英の3教科の学力検査には種類A(基礎的問題)、種類B(標準的問題)、種類C(発展的問題)の3種類の問題を各高校が独自に選択しています。国・数の検査時間は50分・配点は90点、社・理・英は40分90点です。ただし、英語には別途リスニング15分があります。また、種類C問題のみ筆答30分・リスニング25分、問題指示文も英語となります。

### 通信制(3月7日・8日・10日のうち一日実施)

- ☆ 調査書・面接による総合判定です。学力検査はありません。

## 二次入学者選抜(3月25日実施)

- ☆ 公立特別入試、一般入試において募集人員に満たなかった全ての学校で実施。
- ☆ 出願できるのは、「二次選抜の出願時に国公立の高等学校、高等専門学校、特別支援学校高等部のいずれにも合格していない者、又は合格しても必要な手続きをしなかったため入学の資格を失った者」です。
- ☆ 合否判定は、調査書と自己申告書と面接(出願時に実施)で行います。
- ☆ 合否発表は3/26(木)です。

### <学力検査問題の種類並びに学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ抜粋>

高校名	学科名	国語	数学	英語	倍率タイプ
大手前	文理学科	C	C	C	I
交野	普通科	B	B	B	II

香里丘	普通科	B	B	B	I
四條畷	文理学科	C	C	C	I
長尾	普通科	B	B	B	Ⅲ
寝屋川	普通科	C	C	B	I
いちりつ	普通科・英語科・ 理数科	B	B	B	I
野崎	普通科	A	A	A	Ⅲ
枚方	普通科・国際文化科	B	B	B	I
枚方津田	普通科	B	B	B	Ⅲ
枚方なぎさ	総合学科	B	B	B	Ⅱ
牧野	普通科	B	B	B	I

○一般入学者選抜<例 全日制の課程(調査書を要しない選抜を除く。)の場合>

<Step1>

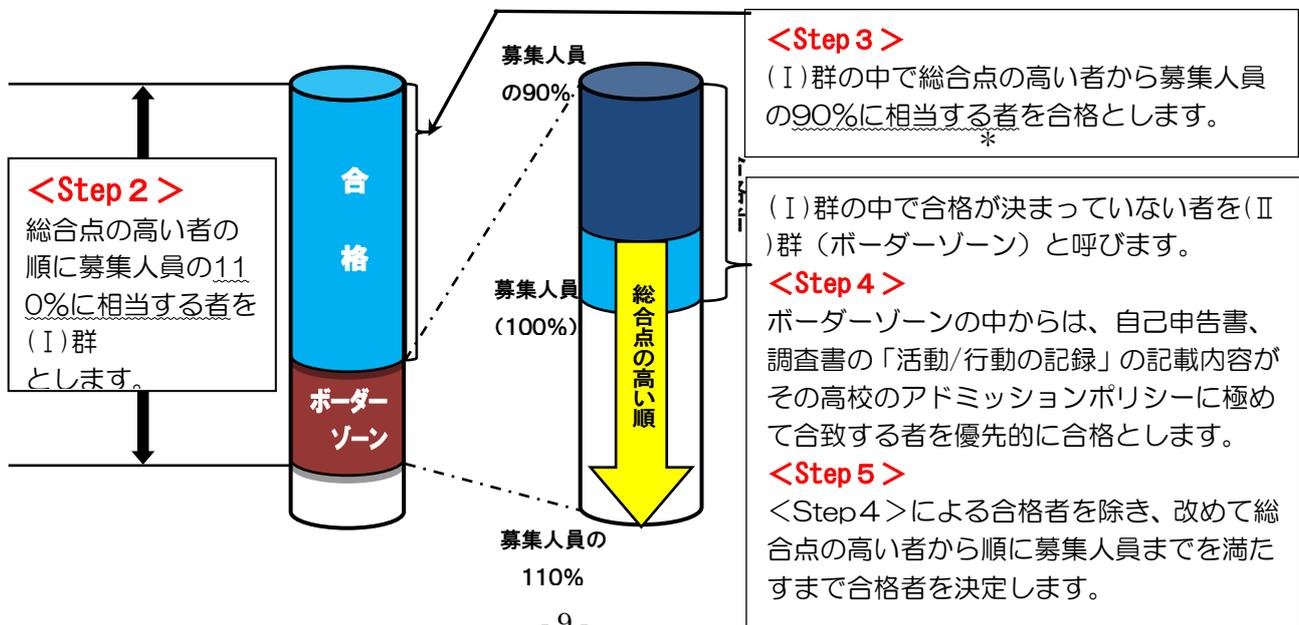
学力検査						
教科	国語	社会	数学	理科	英語	学力検査の成績(①)
配点	90点	90点	90点	90点	90点	450点

調査書  
9教科の評定 各50点(3学年の評定×6倍+2学年の評定×2倍+1学年の評定×2倍)とする。  
(9教科:国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語)

総合点	調査書の評定(②)
	450点

各高等学校長が選択し、府教育委員会が決定したタイプにより、「学力検査の成績(①)」と「調査書の評定(②)」にそれぞれの倍率をかけて合計し、総合点を算出。

タイプ	学力検査の成績(①)に かける倍率(点数)	調査書の評定(②)に かける倍率(点数)	総合点	【参考】 学力検査の成績:調査書の評定
I	1.4倍(630点)	0.6倍(270点)	900点	7:3
II	1.2倍(540点)	0.8倍(360点)		6:4
III	1.0倍(450点)	1.0倍(450点)		5:5
IV	0.8倍(360点)	1.2倍(540点)		4:6
V	0.6倍(270点)	1.4倍(630点)		3:7



### 入学者選抜における英語資格(外部検定TOEFL iBT、IELTS及び英検)の活用について

スコア等に対応する英語の学力検査の読み替え率を次のとおりとし、この読み替え率により換算した点数(最低保障する点数)と当日受験した英語の学力検査の点数を比較し、高い方の点数を当該受験生の英語の学力検査の成績とします。

TOEFL iBT	IELTS	英検	読み替え率	最低保障する点数	
				特別選抜 (満点45点)	一般選抜 (満点90点)
60点	6.0~9.0	準1級	100%	45点	90点
50点	5.5	(対応無し)	90%	41点	81点
40点	5	2級	80%	36点	72点

### ☆ 主な奨学金制度

奨学金名	公立	私立	
大阪府育英会	10万円	24万円	→随時受付
交通遺児育英資金	月額2万円~4万円を選択		
大阪府育英会入学時増額奨学資金	5万円以内	25万円以内	

### <進路クイズ>

1. 私立専願で合格した者が、公立特別選抜に受験できるか。 ( できる ・ できない )
2. 公立特別選抜で合格した者は、公立一般選抜に出願できない。 ( はい ・ いいえ )
3. 英検2級の資格を持っている者が、公立一般選抜の学力検査の結果は80点だった。  
この場合、入試制度の読み替えによって、72点に下がる。 ( はい ・ いいえ )
4. 学力検査と評定の割合が1:1の場合、次の受験生の総合点は何点になるか。

当日の学力検査の結果

国語	社会	数学	理科	英語
34	24	45	32	50

調査書の3年間の評定

	国語	数学	理科	社会	音楽	美術	保健 体育	技術 家庭	英語
1年生	5	3	4	3	5	4	4	3	5
2年生	4	3	4	4	4	3	5	3	5
3年生	5	4	3	5	4	3	4	4	4